

【資料】

オープンキャンパス参加者の入試動向

—鳥取大学の事例—

森川 修, 山田貴光, 古塚秀夫 (鳥取大学)

オープンキャンパスの入試広報としての有用性を検証するため、2010～2014年に鳥取大学で実施したオープンキャンパス参加者の鳥取大学への入試動向（志願、受験、合格、入学）を調査した。オープンキャンパス参加者の翌年度入試の志願率と受験率は20%台後半、合格率と入学率は10%程度で、参加の翌年度の入試だけでなく、数年後の入試にも一定数の志願者が存在したことから、オープンキャンパスが入試広報として有用であると考えられた。また、合格者に対するオープンキャンパス参加者の割合を入試方式で調べると、実施時期の早い入試方式では参加率が高かった。さらに、オープンキャンパス参加者の合格率を入試方式で調べると、後期日程が他の入試方式と比較して低かった。

1 はじめに

本研究の目的は、オープンキャンパス（以下、本文中はOCと省略する）の入試広報としての有用性を検証することである。

背景として、運営費交付金が年々減額される国立大学において、入試広報活動の予算も減額せざるを得ない状況である。その入試広報活動は、2種類に分けることができる。1つは、OCや会場形式進学相談会、高校でのガイダンス（大学説明会）といった受験生などへの直接的な接触である。もう1つは、公式ホームページやメールマガジン、進学サイト、紙媒体の広告などの間接的な接触である。

鳥取大学では、2015年度の入試広報活動予算を削減した。直接的な接触では、会場形式進学相談会と高校でのガイダンスの回数を削減し出張費を抑制した。間接的な接触では、紙媒体の広告を廃止した。さらに減らすとなればOCの経費が考えられる。毎年、鳥取大学では、合格者に「鳥取大学への志望に関するアンケート」を送付し、入学手続き時に回収している¹⁾。2015年度の結果から、入学手続き者の18%が鳥取大学のOCに参加している。しかし、入学手続き者に対する鳥取大学のOC参加率が5%程度の学科もある。特に夏のOCにおいて、各学部・学科では多くの教員や学生が模擬講義や研究室紹介などを実施しているが、その労力や費用対効果を疑問視する声がある。

その一方、2015年度のアンケートで鳥取大学を受験校に選んだ理由として、30項目から複数回答で選択させている。その中で「OC参加」は15位であり、その選択率は8.2%と上位でなく選択率も低い。しかし、OC参加者に限定すると46%の者が、鳥取大学を受験校に選んだ理由として「OC参加」を選択したことから、入学手続き者のOC参加は、志願や受験に

影響を与えたと推測される。これは、他大学の入学者アンケートからも同様に報告されている。（吉村・木村（2010）、本多ほか（2011）、吉村（2013）、並河ほか（2014）、雨森（2016））

また、AO入試や推薦入試の募集人員が多い学科ではOC参加者も多く、教員やボランティアの学生に対して熱心に質問する姿を見かける。そこで、入試方式によりOCへの参加状況が大きく異なると考えられ、2015年度のアンケート結果から入学手続き者の入試方式別OC参加率を調査し、表1にまとめた。その結果、入試の実施時期が早いAO入試の入学手続き者では、OC参加率が90%を超えた。しかし、入試の実施時期が遅くなるにつれてOC参加率が下がり、募集人員の82%を占める一般入試では、OC参加率が10%前後であった。したがって、一般入試での募集人員の比率が高い学科の教員からOCに関する否定的な意見が挙がっても不思議ではない。

そこで、OCの入試広報としての有用性を検証するため、鳥取大学のOC参加者の本学における入試行動（志願、受験、合格、入学）を追跡調査した。

表1. 2015年度入試入学手続き者の入試方式別オープンキャンパス参加率

入試方式	参加率(%)	入学手続き者(人)
AO入試	90	31
推薦入試I	65	34
推薦入試II	41	113
一般入試前期	13	750
一般入試後期	6	249
全体	18	1,181

2 先行研究について

前章で紹介した先行研究は、これらは、いずれも入学者（合格者の場合もある）の OC 参加について言及されているが、OC 参加者のその後の入試行動を調査したものではない。OC で大学を認知してもらうことも重要と考えられるが、OC を実施することの有用性を判断するためには、OC 参加者が参加した大学に志願していることを示すことが、もっとも大切であると考えられる。

そこで、鳥取大学と同じ国立大学において、OC 参加者の自大学への入試行動を追跡した調査は、自大学内限定公開の報告書があると推測されるが、学術論文として報告されているものは、次の 2 例しか見つけることができなかった。

村松ら（2008）による静岡大学の事例は、2004～2006 年の OC 参加者名簿と出願者データから、高校名と氏名等をキーにマッチングを行っている。春季（5 月）、夏季（7・8 月）、秋季（11 月）と 1 年間に 3 回の OC を実施しており、そのうち、2006 年に実施した OC 参加者における 2007 年度入試の出願率は、春季 31%、夏季 21%、秋季 35%であった。さらに、高校 3 年生以上の参加者に限ると、出願率は、春季 42%、夏季 45%、秋季 64%であった。

一方、福島ら（2011）は、Y 大学について 2008～2009 年の直接、間接を問わず、すべての接触者データを用い、市販のデータベース・サービスを利用して出願、受験、合格、入学までの状況を追跡している。OC の実施時期について明確な記載がないが、3 月から 8 月の間に行われて、9 月から 2 月に行わなかったことだけがわかっている。なお、グラフで記載されているため正確な数値は不明であるが、2008 年度に実施した OC 参加者における 2009 年度入試の出願者は 23%であると推定される。ちなみに、受験率は 22%、合格率と入学率は、それぞれ 10%前後であった。

3 調査の概要

3.1 調査方法

先に述べたように、村松ら（2008）は、OC 参加者名簿と出願者データから高校名と氏名等をキーとしてマッチングを行ったとあるが、具体的に氏名、高校名以外に用いた項目、マッチングに使用したソフトやシステムに関しては言及されていない。

一方、福島ら（2011）は、市販のデータベース・サービス「進学アクセスオンライン」を利用して行っているが、個人のマッチングについての詳細な条件は記載されていなかった。

鳥取大学では、真鍋ら（2008）によって開発された「大学接触・志願・入試・卒業時成績の一元管理・分析システム」を用いた²⁾。このシステムは、OC や会場形式進学相談会、高校でのガイダンス（大学説明会）といった受験生など入学前に直接的な接触者の情報と志願者、受験者、合格者、入学者の情報、さらに、入学者の入試や入学後の成績が一元的に管理できるエンrollmentマネジメントを指向したシステムである。このシステムを用いることで、OC 参加者の入試行動を容易に把握することができる。

今回、マッチングの条件としては、OC 参加者情報と志願者情報のうち、氏名と高校名の 2 つの項目が合致することで、同一人物であると判定した。当初は、この 2 つに学年を加えた 3 つの項目でのマッチングを行う予定であった。しかし、2012 年の秋では、当日参加者の受付フォームに学年を記入する欄を設けておらず、当日参加者全員の学年が不明で解析できないため、氏名、高校名の 2 項目しかマッチングに利用できなかった。

3.2 調査対象

2010～2014 年の 5 年間の夏季（7・8 月）と秋季（10・11 月）に実施した OC の参加者と 2011～2015 年度入試における志願者の情報から、氏名、高校名の 2 項目が合致した者を対象とした。ただし、OC 参加者の情報として高校名が不明な者は、OC 参加者に加えなかった。なお、OC 参加者に保護者や高校教員は含めなかった。

4 調査結果

4.1 オープンキャンパス実施の次年度入試の動向

表 2 に 2010～2014 年に開催した夏季と秋季の OC 参加者数と、参加者のうち、次年度の入試における志願者、受験者、合格者、入学者の人数を、表 3 には、OC 参加者に対する次年度の入試の志願率、受験率、合格率、入学率をまとめた。

OC の参加者は、高校 3 年生と既卒者だけと限らない。今回は学年をマッチングに使えなかったため、鳥取大学の 2014 年夏季 OC の参加者アンケート（回収率 33%）結果から、翌年に出願可能な高校 3 年生と既卒者の割合を求めたところ、45%であった。

村松ら（2008）による報告で、静岡大学で夏季の OC 参加者のうち、高校 3 年生と既卒者の割合は、2004 年度が 49%、2005 年度が 44%、2006 年度が 46%であり、鳥取大学と大きな差異は見られなかった。

表 2. オープンキャンパス参加者数と次年度入試の志願者、受験者、合格者、入学者 単位は(人)

実施時期	参加	志願	受験	合格	入学
2010 夏	999	303	287	117	115
2010 秋	181	51	46	21	21
2011 夏	1,042	321	305	115	113
2011 秋	172	73	69	21	21
2012 夏	1,073	282	273	108	105
2012 秋	103	39	38	19	19
2013 夏	903	219	210	82	77
2013 秋	107	44	44	17	17
2014 夏	1,264	288	274	111	106
2014 秋	102	30	29	12	11
夏合計	5,263	1,413	1,349	533	516
秋合計	665	237	226	90	89
合計	5,946	1,650	1,575	623	605

入試の志願率を 5 年間でみると、年度により変動があるもののおおむね 30%程度であった。ただし、開催時期による志願率に違いがあり、秋季が 36%に対して、夏季では 27%と秋季開催の方が高かった。これは、推薦入試Ⅰの出願が 11 月上旬、推薦入試Ⅱの出願が一部の学科で 12 月中旬と、秋季はこれらの入試の出願直前に当たることが理由の 1 つと考えられる。それと、夏季の時点では、志望校として認知し

表 3. オープンキャンパス参加者に対する次年度入試の志願率、受験率、合格率、入学率 単位は(%)

実施時期	志願率	受験率	合格率	入学率
2010 夏	30	29	12	12
2010 秋	28	25	12	12
2011 夏	31	29	12	12
2011 秋	43	40	12	12
2012 夏	26	25	10	10
2012 秋	38	37	9	9
2013 夏	24	23	9	9
2013 秋	41	41	16	16
2014 夏	23	22	9	8
2014 秋	29	28	12	11
夏合計	27	26	10	10
秋合計	36	34	14	13
合計	28	26	10	10

ていなかったが、それ以降の模試の結果を参考として志望校を鳥取大学に変更し、秋季に参加したことも考えられる。これは、「鳥取大学への志望に関するアンケート」で鳥取大学の OC に参加しなかった者への理由を尋ねた項目があり、「OC 開催時に志望校・受験校としていなかった」との理由が圧倒的に多かったことから伺える。

これを村松ら(2008)が調査した静岡大学と比較すると、2006 年の夏季と秋季の OC 参加者の次年度入試の出願率(志願率)は、それぞれ 32%、52%であり、鳥取大学よりやや高いものの同様の傾向がみられた。

一方、福島ら(2011)の調査対象である Y 大学では、OC 参加者の翌年度入試の志願率は 32%であった。3 月から 8 月の時期に開催していることから、夏季の開催と仮定すると、鳥取大学との大きな差はみられなかった。さらに、受験率、合格率、入学率は、それぞれ 22%、10%、10%であり、これも鳥取大学とほぼ同じであった。

4.2 入試年度におけるオープンキャンパスの参加状況

表 4 は、2015 年度入試における OC 参加状況を示した。すなわち、OC 実施時期の参加者数に対する 2015 年度入試の志願率、受験率、合格率、入学率を算出した。その際、複数の入試方式での志願者、受験者も居るが、それぞれの入試方式でカウントせず、1 名としてカウントした。

志願率は、入試年度の前年である 2014 年の OC 参加者(すなわち高校 3 年生か既卒者)がもっとも高

表 4. オープンキャンパス参加者の 2015 年度入試における状況(オープンキャンパス参加者数と参加者数に対する志願率、受験率、合格率、入学率)

実施時期	参加数(人)	志願率(%)	受験率(%)	合格率(%)	入学率(%)
2010 夏	999	0.5	0.4	0.1	0.1
2010 秋	181	0.0	0.0	0.0	0.0
2011 夏	1042	1.0	0.9	0.5	0.5
2011 秋	172	1.2	1.2	1.2	1.2
2012 夏	1073	5.2	4.8	1.9	1.9
2012 秋	103	2.0	2.0	0.0	0.0
2013 夏	903	14.5	12.7	4.4	4.2
2013 秋	107	16.8	15.9	10.2	10.2
2014 夏	1264	22.8	21.7	8.8	8.4
2014 秋	102	29.4	28.4	11.8	10.8

く、OC 参加者に対する志願率は、夏季で 22.8%、秋季で 29.4%だった。これを夏季に限定すると入試年度の 2 年前 (2013 年) の参加者で、志願率は 14.5%、3 年前の参加者 (2012 年) で 5.2%、4 年前 (2011 年) の参加者で 1.0%であった。

この結果から、OC の次年度入試での志願だけではなく、その翌年以降の入試で志願する者が夏季で 14.5%、秋季で 16.8%と一定数存在することが明らかとなった。これは、多くの高校などで 1, 2 年次から OC の参加を勧めている (あるいは義務化している) こともあるが、低年次から OC へ参加している時点で、すでに鳥取大学を志望先のひとつとして考慮していたと考えることができる。

表 5 には、2014 年度入試における OC 参加状況を示した。大まかな傾向は、2015 年度入試と大きく変わらず、志願率は入試年度の前年である 2013 年の OC 参加者をもっとも高く、OC 参加者に対する志願率が夏季で 24.3%、秋季で 41.1%だった。これを、夏季に限定すると 2 年前 (2012 年) の参加者で、16.9%、3 年前 (2011 年) の参加者で、4.1%、4 年前 (2010 年) の参加者で、1.1%であった。

また、2014 年度入試の後に開催された 2014 年の OC に参加している者が 1.0%存在した。これは、鳥取大学を受験して不合格か未受験で浪人している場合、または、他大学に通っている者が 2014 年の OC に参加していると考えられる。

表 5. オープンキャンパス参加者の 2015 年度入試における状況 (オープンキャンパス参加者数と参加者数に対する志願率, 受験率, 合格率, 入学率)

実施時期	参加数 (人)	志願率 (%)	受験率 (%)	合格率 (%)	入学率 (%)
2010 夏	999	1.1	1.0	0.4	0.4
2010 秋	181	0.5	0.0	0.0	0.0
2011 夏	1042	4.1	3.6	1.5	1.3
2011 秋	172	5.2	5.2	2.9	2.3
2012 夏	1073	16.9	15.6	6.2	5.4
2012 秋	103	10.7	10.7	4.9	4.9
2013 夏	903	24.3	23.3	9.1	8.5
2013 秋	107	41.1	40.2	15.9	15.9
2014 夏	1264	0.6	0.6	0.0	0.0
2014 秋	102	1.0	1.0	0.0	0.0

4.3 入試方式別で比較したオープンキャンパスの参加状況

最後に OC の参加状況について入試方式別に比較した。鳥取大学では、入学者数を一般入試の前期日程と後期日程で分けて公表していない³⁾。そのため、入学者ではなく、合格者に対する OC 参加者の割合を求めて 2015 年度入試のデータを表 6 にまとめた。なお、表 6 には追加合格者を含んでいない³⁾。

AO 入試では、合格者に対する OC 参加者の割合が 100%を超えたが、これは複数回の OC に参加するとそれぞれにカウントされるためである。また、表 1 で示した 2015 年度入試入学手続者の入試方式別 OC 参加率とほぼ同じ傾向で、実施時期の早い入試方式の順に参加率は高かった。これは、実施時期の早い入試方式は、鳥取大学を第 1 志望にしている割合が、合格者に対する志望に関するアンケートから明らかとなっている。さらに、OC 参加者は、AO 入試と推薦入試に多いことが、村松ら (2008) や雨森 (2016) で示されており、本学も同様の結果が得られた。

次に、表 7~11 では、鳥取大学の 2015 年度入試で実施されている入試方式⁴⁾のうち、5 種類の入試における OC 参加者数に対する志願率, 受験率, 合格率を OC の時期ごとにまとめた。OC の現場では、

表 6. 入試方式別 2015 年度入試合格者に対するオープンキャンパス参加状況

入試方式	AO	推 I	推 II	前期	後期
参加者数(人)	32	21	39	93	17
合格者数(人)	31	34	113	828	335
参加率(%)	103	61	35	11	5

表 7. 2015 年度 AO 入試におけるオープンキャンパス参加者の受験状況 (参加者数と参加者数に対する志願率, 受験率, 合格率)

実施時期	参加者(人)	志願(%)	受験(%)	合格(%)
2012 夏	1,073	0.4	0.4	0.1
2012 秋	103	1.0	1.0	0.0
2013 夏	903	1.2	1.2	0.6
2013 秋	107	2.8	2.8	0.1
2014 夏	1,264	6.7	6.7	2.0
合計	5,946	1.7	1.7	0.5

*2010 年, 2011 年, 2014 年秋の参加者に志願者がいなかったため、表から除いた。

表 8. 2015 年度推薦入試 I におけるオープンキャンパス参加者の受験状況（参加者数と参加者数に対する志願率、受験率、合格率）

実施時期	参加者(人)	志願(%)	受験(%)	合格(%)
2013 夏	903	0.7	0.7	0.1
2013 秋	107	2.8	2.8	0.9
2014 夏	1,264	2.9	2.9	1.3
2014 秋	102	6.9	6.7	2.9
合計	5,946	0.9	0.9	0.4

*2010 年, 2011 年, 2012 年の参加者に志願者がいなかったため, 表から除いた。

表 9. 2015 年度推薦入試 II におけるオープンキャンパス参加者の受験状況（参加者数と参加者数に対する志願率、受験率、合格率）

実施時期	参加者(人)	志願(%)	受験(%)	合格(%)
2010 夏	999	0.1	0.1	0.0
2011 夏	1,042	0.4	0.3	0.1
2012 夏	1,073	1.3	1.2	0.3
2013 夏	903	2.0	1.9	0.7
2013 秋	107	2.8	2.8	2.8
2014 夏	1,264	5.5	5.3	1.7
2014 秋	102	12.7	11.8	3.9
合計	5,946	2.1	2.0	0.7

*2010 年秋, 2011 年秋, 2012 年秋の参加者に志願者がいなかったため, 表から除いた。

AO 入試と推薦入試に関する質問が多く, その志願者が多くを占めていると予想したが, 今回の調査で, AO 入試と推薦入試が突出して多い訳ではなく, 前年や 2 年前の OC 参加者の 7~15%が一般入試前期日程や後期日程の志願していることが明らかとなった。

さらに, それぞれの表から, 受験者に対する合格者の割合を算出し, 表 12 にまとめた。後期日程だけが低かったが, それ以外では差が見られなかった。後期日程での志願は第一志望でない可能性が高く, 後期日程では難易度が上昇するため, 合格者の割合の低下は, 学力不足が要因と推察される。

福島ら (2011) は, 接触方法別に関しては詳しく分析をしているが, 入試方式に関して触れられていない。

一方, 村松ら (2008) は, 4 種類の入試方式で比較しているが, OC 参加者数に対する割合を算出して

いる。ただ, 募集人員が不明なため, 鳥取大学との比較することは困難であった。

表 10. 2015 年度一般入試前期日程におけるオープンキャンパス参加者の受験状況（参加者数と参加者数に対する志願率、受験率、合格率）

実施時期	参加者(人)	志願(%)	受験(%)	合格(%)
2010 夏	999	0.4	0.4	0.1
2011 夏	1,042	0.7	0.6	0.3
2011 秋	172	1.2	1.2	1.2
2012 夏	1,073	3.4	3.4	1.4
2012 秋	103	1.0	1.0	0.0
2013 夏	903	9.3	8.5	2.5
2013 秋	107	12.1	9.3	4.7
2014 夏	1,264	10.6	9.2	3.1
2014 秋	102	14.7	13.7	4.9
合計	5,946	5.0	4.5	1.6

*2010 年秋の参加者に志願者がいなかったため, 表から除いた。

表 11. 2015 年度一般入試後期日程におけるオープンキャンパス参加者の受験状況（参加者数と参加者数に対する志願率、受験率、合格率）

実施時期	参加者(人)	志願(%)	受験(%)	合格(%)
2010 夏	999	0.2	0.0	0.0
2011 夏	1,042	0.3	0.2	0.1
2012 夏	1,073	3.0	1.8	0.1
2013 夏	903	7.5	4.3	0.6
2013 秋	107	8.4	2.8	0.9
2014 夏	1,264	7.5	4.2	0.7
2014 秋	102	10.8	5.9	0.0
合計	5,946	3.7	2.1	0.3

*2010 年秋, 2011 年秋, 2012 年秋の参加者に志願者がいなかったため, 表から除いた。

表 12. 2015 年度入試におけるオープンキャンパス参加者の合格率（受験者に対する割合）

入試方式	AO	推 I	推 II	前期	後期
合格者数(人)	32	21	39	93	17
受験者数(人)	104	54	116	267	123
割合(%)	31	39	34	35	14

5 おわりに

鳥取大学 OC 参加者の本学における入試動向について調査した。先行研究で調査が行われた大学と大きな差は見られず、OC 参加者の翌年度入試の志願率と受験率は 20%台後半、合格率と入学率は 10%程度であった。ただ、OC 参加の翌年に志願しているだけでなく、2 年後以降にも 11~17 %の志願者が存在することが明らかとなった。

入試広報は、単なる広報とは異なり、認知してもらうことだけではなく、志願などの受験行動に現れて初めて評価に値すると考える。したがって、OC 参加者の約 1/4 以上が志願や受験につながったという今回の結果は、入試広報として OC は有意義であると考えられた。

本調査の課題としては、接触者情報の精度である。鳥取大学の OC の申し込みは、web での事前予約が基本であるが、申し込みフォームで学年や高校名などの情報が一部欠けても、予約を受け付けられるようになっていた時期があった。特に、高校名がわからないケースは、今回の調査対象とはならず、実際の OC の参加者よりもデータが 10%以上少ない年もあった。さらに、受験対象者ではなく、その保護者が申し込むケースがあると、OC に参加しているが、情報が得られないという現象が起きる。

これらの課題を解決すると、接触者情報の精度を向上することができ、OC を中心とした今後の入試広報のあり方について、有意義な情報を与えることが期待できる。

注

- 1) 鳥取大学への志望に関するアンケート調査は、合格者へ合格通知とともに発送し、入学手続の際に回収する方法で行っている。2015 年度入学手続者は 1181 名で 1174 名からアンケートを回収した。回収率は 99.4%であった。
- 2) 「大学接触・志願・入試・卒業時成績の一元管理・分析システム」は市販されており、それを購入して利用した。
- 3) 追加合格者が前期日程と後期日程のどちらとも受験している場合、その者を前期日程か後期日程かに分けることができないため、鳥取大学は入学者数を前期日程と後期日程に分けて公表していない。
- 4) 鳥取大学の 2015 年度入試では、AO 入試、推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)、推薦入試 II (大学入試センター試験を課す)、一般入試前期日程、一般入試後期日程の 5 種類以外に、帰

国子女特別入試、社会人特別入試、私費外国人留学生入試の 3 種類の入試を実施しているが、入学者がそれぞれ 2 名、2 名、0 名ときわめて少数であるため、調査対象としなかった。

参考文献

- 雨森 聡 (2016). 「入試広報戦略のありようについて—入試広報の効果検証を中心に—」『大学入試研究ジャーナル』**26**, 111-116.
- 福島真司・吉村 修・坂本嵩幸・笠原龍司 (2011). 「大学入試広報における効果測定の研究—データベースを用いた入試広報媒体の測定について—」『大学入試研究ジャーナル』**21**, 75-82.
- 本多正尚・島田康行・大谷 奨・高野雄二・関 三男・佐藤真紀・白川友紀 (2011). 「大学の入試広報と入学者の利用する情報源の差異およびその評価」『大学入試研究ジャーナル』**21**, 69-74.
- 村松 毅・寺下 榮・田中 勝 (2008). 「『対面型』入試広報の効果測定に関する調査〈総括〉」『大学入試研究ジャーナル』**18**, 1-6.
- 並河 務・佐藤喜一・濱口 哲 (2014). 「入試広報に関する受験者・保護者の動向の検討—新潟大学入学者を対象とした入試広報アンケートの分析から—」『大学入試研究ジャーナル』**24**, 149-154.
- 真鍋芳樹・山崎裕正・安部文雄 (2008). 「大学接触・志願・入試・卒業時成績の一元管理・分析システムの開発」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第3回大会研究発表予稿集』, **12**, 50-56.
- 吉村 宰 (2013). 「新入生の受験校決定理由の特徴と入学時点での「気持ち」および学業成績との関連」『大学入試研究ジャーナル』**23**, 63-70.
- 吉村 宰・木村拓也 (2010). 「新入生を対象とした入試広報活動に関する調査」『大学入試研究ジャーナル』**20**, 209-216.